

環境目標（１）多様な生態系と共生するまちづくり

～豊かな自然・文化の保全・創造と環境共生型社会資本の整備～

本市には、豊かな自然環境が市域全体に残り、多種多様な野生生物が生息しています。この環境を保全・改善していくことは、現在及び将来の市民がいきいきと健康に暮らしていくのに必要です。

こうしたことから、自然環境の保全や再生に一層力を入れ、生態系を育むまちづくりを進めます。

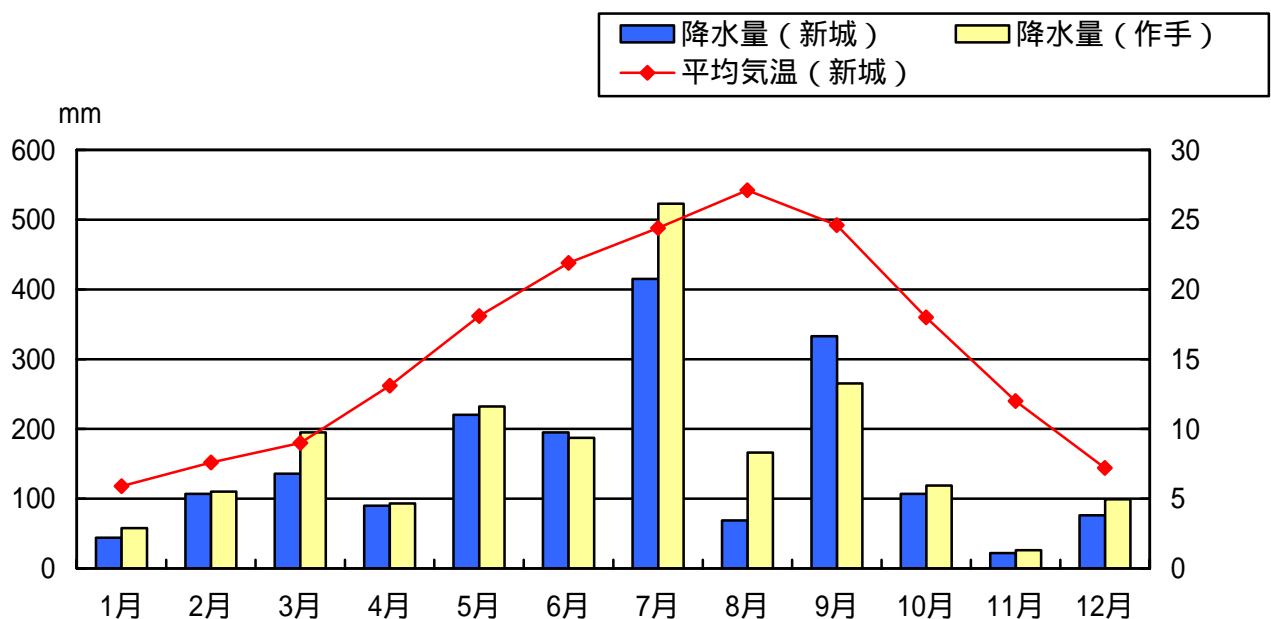
～ 現況 ～

自然環境

気象

本市は、新城・鳳来地区と作手地区との市域高低差が約 500mあります。豊川沿いに位置する新城・鳳来地区の年平均気温は約 15 と比較的暖かな地域ですが、作手地区になると約 12 となり、市域内で2～3 の気温差になります。また、総雨量も気温と同様に市域に差があります。降雪は、豊川沿いに位置する地域では毎年12月から3月までに数回記録されますが、積雪はほとんどありません。作手地区になると、冬場は積雪や道路の凍結が毎日のように続きます。

平成 19 年 月別平均気温・降水量



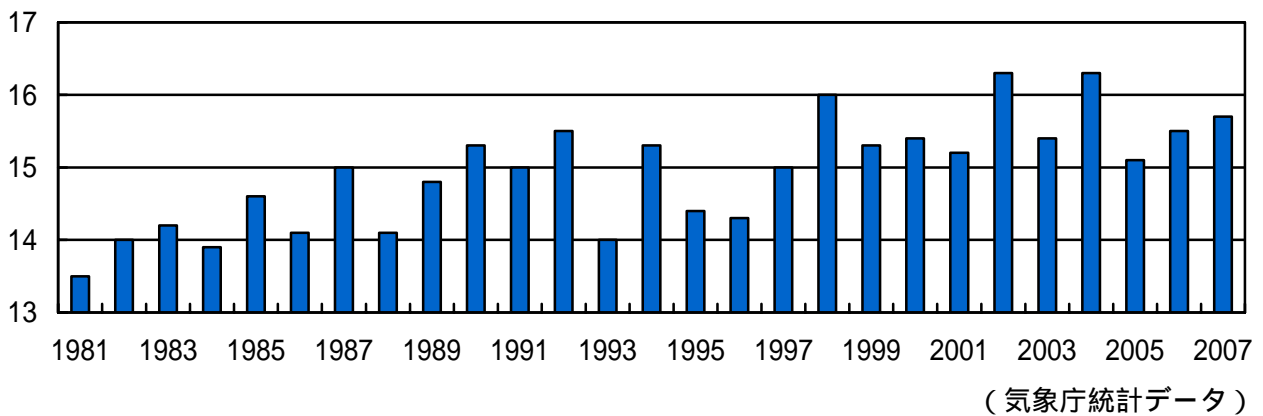
（気象庁統計データ）

新城市の気温に関するデータ

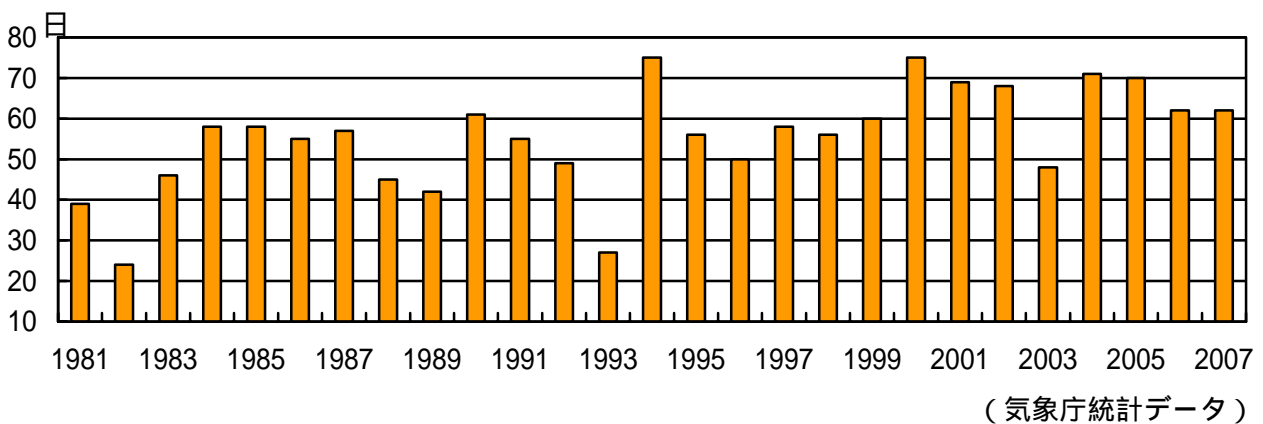
1981年から2007年までの27年間のデータを比較しますと、年平均気温は上がったり下がったりをくり返しながらも徐々に気温が上昇傾向にあるのがわかります。

また、最高気温30以上の「真夏日」日数、最低気温0未満の日数においては、直近の10年間で1980～1990年の10年間とを比較してみても、それぞれ日数に違いがあることがわかります。

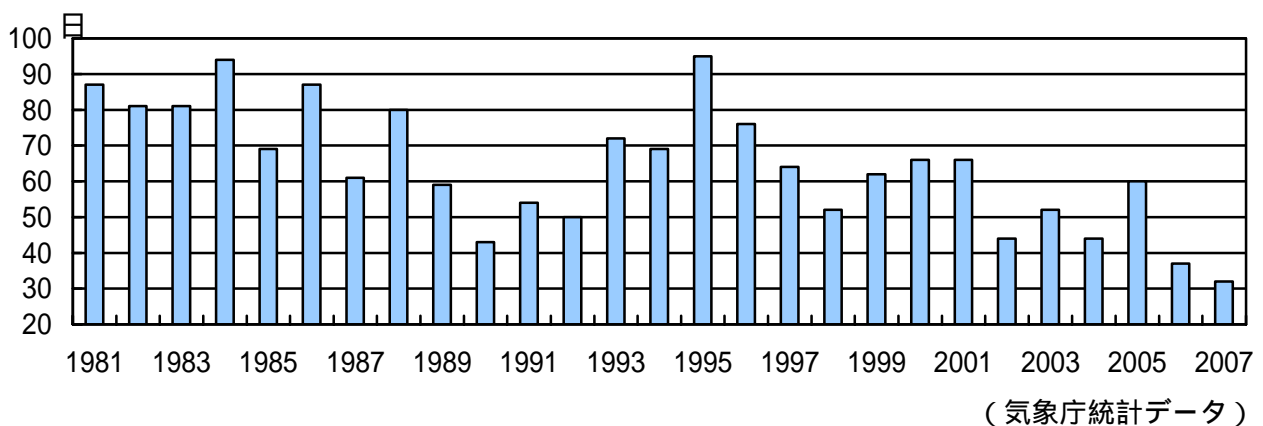
【年平均気温の推移】



【最高気温30以上の日数】



【最低気温0未満の日数】



観測点は、2002年以前は旧鳳来町長篠地内にありました。現在は、新城市富沢地内に移設されています。

地形・地質

段戸高原を源とする豊川(寒狭川)と宇連ダムを起点とする宇連川が鳳来寺山の東西を挟むように流れています。

この2河川が、長篠の戦いの中心となった長篠城址の下で合流し、豊川本流となり三河湾へと注がれます。

この豊川に沿って日本最長の断層帯「中央構造線」が縦走り、地形と地質を豊川本流右岸の内帯と左岸の外帯に分けています。内帯側の地質は、花崗岩類・頌家変成岩類と堆積岩、火山岩類が分布しています。

外帯の地質は、主に緑色片岩や黒色片岩からなる三波川帯で構成されています。これらは、平坦地が洪積層・沖積層となっています。



作手地区長の山湿原

作手地区は床土が水をにがさない粘土であること、平らな地形で湧き水があり、夏の気温が低く雨の多い気候であることなどの条件から6か所の湿原が点在しています。作手の湿原は、愛知県で唯一、土の酸素が少なく酸性が強いため植物が腐らずに炭のようになるでい炭のある湿原であることから「日本の重要湿地500」に選定されています。

植生

本市の行政面積は、83.5%が森林で、尾根沿いを中心に在来の常緑広葉樹林が点在しているものの、森林面積の80%以上はスギやヒノキの人工林となっています。

新城・鳳来地域は、暖地系の植物の多い地域で、特に鳳来寺山は、ホソバシャクナゲの自生地として全国的にも有名です。また、ツガ群落の他、亜高木のヤブツバキ、アラカシ、ツクバネガシや低木層のアオキなどが常緑広葉樹林の群落をつくり、シダ植物以上の高等植物が800余種確認されています。天然のよい植物見本園として、国の名勝及び天然記念物に指定されています。

豊川沿いにおいても、比較的自然植生が多く種類も豊富です。特に桜淵公園の蜂の巣岩付近は、石灰岩を含む地質で構成されており、クモノスシダ、ツルデンダなど石灰岩特有の植物が見られます。

作手湿原には、全国的に見ても絶滅の危険性のあるサギソウ、トキソウ、サワラン、ヤチスギランや県内でもこの地域でしか見られないサギスゲ、ミタケスゲ、ヌマクロボスゲ、ツルカミカワスゲ、ミヤマナルコスゲなどの貴重なものがみられます。

動物

本市は、豊川・矢作川にそそぐ支流小河川とその周辺の農地及び外縁部の山地などほぼ市域全体が豊かな自然環境に恵まれており、多くの動物が生息しています。

種 類	解 説
哺乳類	雁峰山から本宮山にかけての北部山地と東部および南部の山地を中心にニホンザルをはじめイノシシ、タヌキ、ニホンリス、ノウサギなどの生息が見られる。また、本宮山を中心とする地域にホンシュウシカ（ニホンジカ）の生息地、山地と一部の社寺林にはムササビの生息が確認されている。
鳥類	豊川やそれにそそぐ小河川を中心に市域外縁部の山地まで全域にわたり多くの野鳥が生息している。豊川には、オシドリや「水辺の宝石」ともいわれるカワセミが生息しており、桜淵公園だけでも年間を通して約 80 種の野鳥が確認されている。また、鳳来寺山や作手地区の山々には「仏法僧」と聞こえる鳴き声で有名なコノハズクの生息が確認されている。
魚類	天然記念物ネコギギをはじめ、ウナギ、アユ、オイカワ、ウグイ、コイ、ホトケドジョウ、メダカなどの生息が確認されている。しかし、市内の沼や池には外来種ブラックバスやブルーギルなどが繁殖していることから在来種の生息が危ぶまれている。
昆虫類	本市の様々な植生により多くの種類が確認されている。1983年（昭和58年）3月に市の天然記念物に指定されているヒメハルゼミをはじめ多くのセミ類やトンボ類、チョウ類、カブトムシ、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタなどの甲虫類やタガメ、ヒメボタルなど生息するとされている。しかし、スギやヒノキの植林地が広がり、シイ・カシ林に生息するとされるヒメハルゼミの確認が難しくなるとともに、その他の昆虫類も開発や農薬などの影響を受け確認事例が減少傾向にある。また、外来種による日本固有の生態系への影響が懸念されている。
爬虫類	シマヘビ、ジムグリ、タカチホヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシ、マムシなどのヘビ類やニホンイシガメ、ニホンカナヘビ、ニホントカゲが確認されている。最近では、ペットとして飼われていた外来種が巨大化などにより自然に放たれることにより、在来種の生態系への影響だけでなく、人への危害も懸念されている。
両生類	山地の樹上で昆虫やクモ類などを食べ、単独で生活する日本固有のモリアオガエル、ヒキガエル、アマガエル、トノサマガエルなどのカエル類やイモリが確認されている。モリアオガエルは、県内でも特にこの地域での生息が確認できる。



歴史的・文化的環境

指定文化財の状況（文化課）

平成 19 年度末現在

	種 別	名 称	所在地	指定年月日
国指定文化財	建造物	東照宮	門谷	S28.11.14
		鳳来寺仁王門	門谷	S28.11.14
		望月家住宅	黒田	S49.2.5
	絵画	絹本著色三千仏名宝塔図	中宇利	H6.6.28
	彫刻	木造薬師如来坐像	庭野	S6.12.14
		木造阿弥陀如来坐像	巢山	S52.6.11
		附 木造観音菩薩坐像	巢山	S52.6.11
	無形民俗	三河の田楽	門谷・七郷一色	S53.5.22
	史跡	長篠城跡	長篠	S4.12.17
	名勝	鳳来寺山	門谷	S6.7.31
		阿寺の七滝	下吉田	S9.1.22
	天然記念物	乳岩及び乳岩峡	川合	S9.1.22
		馬背岩	豊岡	S9.5.1
		黄柳野つげ自生地	黄柳野	S19.3.7
甘泉寺のコウヤマキ		作手鴨ヶ谷	S47.5.26	
国登録文化財	建造物	旧黄柳橋	乗本	H10.9.2
		瀧川家住宅主屋	出沢	H17.2.28
		瀧川家住宅長屋門	出沢	H17.2.28
		瀧川家住宅祠	出沢	H17.2.28
県指定文化財	絵画	甘泉寺の涅槃図	作手鴨ヶ谷	S47.6.7
	彫刻	木造十一面観音立像	杉山	S32.1.12
		木造不動明王立像	巢山	S53.3.15
		木造熊野三所懸仏	巢山	S54.3.22
	無形民俗	信玄原の火おんどり	竹広	S40.5.21
		乗本万灯	乗本	S51.7.14
		南設楽のほうか	大海・布里・一色 塩瀬・源氏・名号	S58.9.14
	史跡	設楽のしかうち行事	能登瀬	S58.3.7
		宇利城跡	中宇利	S32.9.6
		旗頭山尾根古墳群	八名井	S53.5.29
	名勝	断上山古墳 9・10号墳	大宮	S53.10.16
		満光寺庭園	下吉田	S49.7.3
	天然記念物	須山のイヌツゲ	作手清岳	S29.2.5
		ムカデラン自生地	川合	S30.5.6
ねずの樹		門谷	S30.7.1	
長ノ山湿原		作手岩波	S48.11.26	
	中宇利丸山の蛇紋岩植生	中宇利	S55.2.12	

市指定文化財	種 別	指定数	名 称
	建造物	8	能舞台、満光寺の山門、薬師堂など
	絵画	3	太田白雪画像、鳥居勝商磔殺の図など
	彫刻	29	木造大日如来坐像、山寺の寝観音、木造金剛力士像（阿形・吽形）など
	工芸品	6	能装束・能面、鰐口、唐の頭、喚鐘、鉄砲、梵鐘
	典籍	8	太田白雪自筆著書、大般若波羅密多経巻など
	古文書	38	今川義元証文、朱印状、慶長9年検地帳、御觸書留帳（町役場日記）など
	考古資料	7	大ノ木遺跡他遺跡出土品、茶臼山古墳他古墳出土品
	歴史資料	1	吉田川井堰引船図附 井堰御普請関係文書
	無形	2	祭礼能、立物花火
	有形民俗	7	石座石、服部神社伝来赤引糸関係遺物など
	無形民俗	13	新城歌舞伎、山ノ神年占い、鍋づる万灯など
	史跡	64	上ノ平遺跡、摩訶戸古墳群、新城城跡、信玄塚、芭蕉句碑、蟻塚など
	名勝	4	鳴沢の滝、桜淵、鮎滝、富賀寺庭園
天然記念物	24	白鳥神社の大スギ、ヒメハルゼミ、有海ミカワバイケイソウ自生地など	



御觸書留帳（町役場日記）【古文書】



新城歌舞伎【無形民俗】



木造金剛力士像 阿形・吽形【彫刻】



ミカワバイケイソウ自生地【天然記念物】

歴史・文化関連施設（文化課）

鳳来寺山自然科学博物館

鳳来寺山自然科学博物館は、国の指定名勝天然記念物・鳳来寺山を中心に、自然の宝庫である東三河を研究するため昭和 24 年 9 月に結成された「東三河の地質と鉱物の会」が田口鉄道鳳来寺駅の公舎を改造して開館した、田口鉄道自然科学博物館が前身になります。



そして、昭和 38 年 4 月 26 日、元鳳来寺村長で林業家の丸山喜兵衛氏の寄付により、日本初の二重展示方式を取り入れるなど全国的にも画期的な町立の自然科学博物館が建設されました。

各自然分野の専門家である学芸委員による野外学習会は、開館からの 44 年間たゆまず開催されており、展示活動においては、足元の自然をテーマに郷土のすばらしさを様々な角度から掘り下げて展示されています。

設楽原歴史資料館・長篠城址史跡保存館



設楽原歴史資料館

日本三大決戦の一つとされる長篠・設楽原の戦いは、織田・徳川連合軍が初めて新兵器鉄砲(火縄銃)を大量に使用し、その威力をまざまざと見せつけ、後の戦術に一大変革をもたらした日本史に残る著名な戦いです。

設楽原歴史資料館、長篠城址史跡保存館には、戦国の分岐点を演じた「鉄砲の戦い - 設楽原の決戦」にまつわる人、経緯、火縄銃の果たした役割・その歴史を展示しており、織田・徳川連合軍が

陣地の前にめぐらした武田騎馬軍の進撃を防ぐための馬防柵も再現しています。

また、設楽原歴史資料館には、日本開国の基となった幕末の日米修好通商条約調印の立役者・岩瀬忠震についての資料も展示しています。

作手歴史民俗資料館

作手高原には、「日本の重要湿地 500」にも選定されている広大な湿地帯があり、人々は原始・古代から現代に至るまで、その湿地をたくみに利用してきました。

作手歴史民俗資料館には、こうした風土の中で育まれた人々の歴史、民俗や湿地についての資料が集められています。



長篠城址史跡保存館

歴史・文化関連施策

新城ふるさとマイスター（企画課）

趣味や仕事などで、豊富な知識や経験、優れた技術を持つその道の達人「新城ふるさとマイスター」が、地域での講演会や体験型行事の先生として、とっておきの技や知恵をお教えします。現在、ふるさとマイスターには、次の18分野19名の方が認定されています。

【新城ふるさとマイスター認定者一覧】（平成19年度末現在）

氏名【内容】	氏名【内容】
藤田 萬吉 【木彫】	藤村 喜八郎 【手づくり豆腐】
林 吉宏 【農村家庭のしきたり】	佐藤 正明 【ピアノ・オルガン再生】
山岸 桃子 【家庭で使うパソコン】	滝川 英昭 【メンタルヘルス】
菅沼 伸之 【竹細工】	岡田 真澄 【世界の桜】
杉浦エリザベス・森田紀代美 【二ヶ国語絵本読み聞かせ】	原田 卓昌 【はくせい】
	大井 みどり 【パッチワーク】
竹本 政一 【陶芸】	古市 正一郎 【マジック（手品）】
原田 弘子 【藍染】	黒田 千歳 【和紙の花】
菅谷 哲也 【火縄銃研究】	菅谷 年弘 【趣味の庭造り】
河部 義通 【柿酢】	

新城まちなか博物館（生涯学習課）

新城まちなか博物館は、新城の風土の中で生まれた新しいタイプの博物館活動で、仕事場や生活の場がそのままミュージアムであるということです。

「まち」の活動や暮らしの工夫がそのまま博物館であり、生涯学習のキャンパスとなります。順次まちなか博物館の指定を進め、現在は17館になりました。

【新城まちなか博物館指定一覧】（平成19年度末現在）

	博物館名	内容
1	日野屋商店	酒蔵
2	中西農村民具室	明治時代からの農村民具の展示
3	大原商家民具室	明治時代からの商家民具の展示
4	はたおり工房	高機による機織り
5	馬場彫金工房	鋼板のレリーフ・器の作成
6	藍弘苑	本藍による絞り染め
7	出沢やままゆ養蚕所	やままゆ施設見学・養蚕体験
8	郷土の食品・さくら工房	そば・五平もち作り体験
9	竹細工工房	虫かご・歴史的建造物の制作
10	寒峰窯（陶芸）	陶芸及び制作
11	ねんどの里	石粉粘土による創作人形
12	イーハートーブ吉川	染色工房・染め絵制作
13	竹工房・雅夢	竹細工
14	明神窯（竹炭）	釜入れ・釜出し・材料集め体験
15	エコファーム河部自然農園	果樹栽培と柿酢作り
16	(有)伸昌	銅版を使った折鶴作り
17	ヴァイオリン工房 Sadaprimo	ヴァイオリン製作

～ 施策実施状況 ～

キーワード 豊かな自然			
施策の目標 豊かな自然の保全 現存する自然の量的確保と質の維持・向上をめざし定期的な自然環境調査を行い、樹林・水辺・谷戸など生態系に重要な環境の保全・育成に努めます。			
施策項目 定期的な自然環境調査の実施			
事業名		区分	担当課
自然環境保全基礎調査		継続	文化課
取り組み内容 新城の自然環境の実態を把握するための基礎調査を実施し、環境保全、共生、活用のための基礎資料を作成します。 鳳来寺山自然科学博物館学術委員と市民およびボランティア等と連携した体制を構築し、調査を推進します。			
【博物館学術委員】			
地学分野	仲井豊、菅谷義之、遠西昭寿、河村善也、横山良哲		
植物分野	三津井宏、山田弘、中西正、成田務、加藤等次、山田由乃		
動物分野	大平仁夫、堀正和、緒方清人、西本ふたば、川村浩、小山舜二、水谷英夫		
課題・問題点等	学術委員の高齢化。調査ボランティアの育成。資料および標本類の収蔵管理。		
今後の展開	平成 25 年に自然環境基礎調査報告書発行、26 年新城版レッドデータリスト作成、27 年に新城市の自然誌発行をめざす。		
事業名		区分	担当課
農地・水・環境保全向上活動支援事業		新規	農業振興課
取り組み内容 農地の保全、開水路・農道等施設の適正な管理保全による長寿命化とともに農村環境を保全する効果の高い取り組みを行う活動組織を支援しています。 現在、市内 19 地区で実践活動が行われています。			
活動状況			
	地区名	活動組織名	主な活動
1	上平井	上平井地域環境保全隊	生物生息状況把握、水質モニタリング調査ほか
2	片山	片山地域環境保全隊	生物生息状況把握、田法面への植栽ほか
3	牛倉	牛倉地域環境保全隊	大宮川の生物状況把握、水仙の植栽
4	鳥原	鳥原地区環境保全会	希少種の監視及び生息状況の把握、施設への植栽ほか
5	浅谷	浅谷地域の環境を守る会	五反田川の水質・魚の生息調査、コスモス等の作付け
6	大宮	大宮地域環境を守る会	菜の花作付け、施設への植栽
7	石田	石田の地域環境を守る会	ホタルなどの生息調査
8	杉山	杉山の環境を守る会	施設への桜の植栽
9	八名井	八名井農地・水・環境保全会	施設への植栽

活動状況

	地区名	活動組織名	主な活動
10	富岡中部	富岡中部環境保全会	施設への植栽
11	豊島	豊島環境保全会	放流等を通じた在来生物の育成、生物生息状況把握
12	布里	布里農地・水環境保全隊	施設の巡回点検・清掃の実施
13	塩瀬	塩瀬地域資源保全隊	施設の巡回点検・清掃の実施
14	一色、島田、恩原、湯島	あいり農地・水環境保全隊	施設への植栽
15	和田	和田地域環境保全会	施設の巡回点検・清掃の実施
16	田代	田代地域環境保全会	在来生物の育成活動
17	黒瀬	黒瀬美土里会	水路内の生物生息状況把握
18	善夫	善夫守里隊	水路内の生物生息状況把握
19	菅沼	菅沼を良くしまい会	水路内の生物生息状況把握

課題・問題点等

活動計画に基づく共同活動が実践されていると認められるが、取り組みの質的向上が求められる。

今後の展開

活動組織間の交流、関係機関との連携を進め、共同活動に対する地域住民の理解を深め、多くの人の参加、協力を呼びかける。

キーワード 自然とふれあうまち

施策の目標 自然に親しむ心の醸成

子どもの頃からの自然への親しみは、健康で健全な情操を育みます。自然は、あらゆる階層の人々にとって潤いとやすらぎの空間です。生活圏のなかに豊かで親しみやすい自然を配し、日常的にそれとふれあう環境を創造するとともに自然を大切にする心の教育と学習に努めます。

施策項目 家庭・学校・社会での自然環境学習の推進

事業名	区分	担当課	評価
鳳来寺山自然科学博物館活動	継続	文化課	

課題・問題点

自然に親しみ、体験をとおして学ぶことの楽しさや意義が伝わる普及活動の強化。参加者の拡大とリピーターの育成。指導者の育成。

施策の展開

市内全域の豊かで多様な自然環境を生かし、観察内容や候補地の検討を行っていく。

取り組み内容

特別展示

季節に合わせ、足元の自然をテーマに魅力的な特別展を企画しています。

展示会名	内容	期間
三河の自然展	三河地方の動植物の展示と連携講座（8回）の開催	3月22日～5月20日
豊川流域の自然を探る	豊川流域に見られる動植物、地形地質を総合的に展示し、郷土の自然の豊かさを紹介	7月20日～9月2日
きのこ展	新城市を中心とした奥三河地方の野性きのこの展示ときのこの役割について紹介	9月29日～11月4日
みんなの博物館展	市内小学生の自然学習の成果と博物館友の会員のコレクションを展示紹介	11月23日～2月3日

野外学習会

博物館の各分野の学術委員を講師として、1年を通じ様々な学習会を開催しています。

【平成19年度 野外学習会開催状況】

テーマ（実施日）	参加人数
作手の春の里山の植物（4月28日）	56人
知多半島の地形と地質（5月20日）	37人
鳳来寺山で春の生きものとモリアオガエルを観察しよう（5月27日）	69人
本宮山と作手高原の地学（7月29日）	40人
川の周辺の生きものを調べよう（9月2日）	13人
きのこを調べよう（10月14日）	70人
県民の森の紅葉を楽しむ（11月11日）	56人
野鳥を観察して巣箱をつくろう（12月2日）	34人


友の会会員制度

自然学習会などを通じ、自然に対する知識や理解を深めるとともに仲間の交流や友好を図ることを目的として昭和51年に「友の会」を設立しました。個人・家族・学校のクラブ単位で入会でき、様々な博物館行事等に参加できる仕組みになっています。

会員の期間は1年間で、毎年更新されます。平成19年度は全国658名の方が入会しました。平成15年にはボランティアグループ「博物館協力隊」をつくり、博物館の支援、協力活動がはじまりました。19年度は26名が登録しています。

新たな課題 今後の展開

郷土の自然の魅力を引き出し、発見できる新たな視点や、フィールドの開発をしつつ、地に足の着いた活動を継続していく。

施策項目	自然体験の推進																		
	事業名	区分	担当課	評価															
	こども自然講座	継続	文化課																
課題・問題点	小学生の年齢（学年）の幅が大きく、講座内容、対応が難しい。																		
施策の展開	食べられる野草、石器づくり、千枚田の生きもの観察など子どもの興味がわくものをテーマとして開催。																		
取り組み内容																			
<p>子どものころから自然の中で、石や虫、草花を観察したり遊んだりしながら、郷土の自然に親しみ、その魅力や大切さを実感する機会として、「こども自然講座」を開催しています。</p> <p>【こども自然講座開催状況】（平成 19 年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>開催日</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食べられる野草を調べよう</td> <td>5月5日</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>古代人に挑戦！ 原石を探して石器づくり</td> <td>6月2日</td> <td>45人</td> </tr> <tr> <td>四谷千枚田の生きものたち</td> <td>8月5日</td> <td>12人</td> </tr> </tbody> </table>					テーマ	開催日	参加人数	食べられる野草を調べよう	5月5日	14人	古代人に挑戦！ 原石を探して石器づくり	6月2日	45人	四谷千枚田の生きものたち	8月5日	12人			
テーマ	開催日	参加人数																	
食べられる野草を調べよう	5月5日	14人																	
古代人に挑戦！ 原石を探して石器づくり	6月2日	45人																	
四谷千枚田の生きものたち	8月5日	12人																	
新たな課題 今後の展開	学校との連携を図り、講座内容やその成果等のフィードバックを行う。																		
	事業名	区分	担当課	評価															
	ジュニアナチュラリスト養成楽級 ～川原の学校・石ころ教室～	継続	文化課																
取り組み内容																			
<p>地質の宝庫といわれる奥三河を流域にもつ豊川の川原の石を調べて、郷土の大地の成り立ちを調べます。上流から下流までの川原のようすを調べ、石のふるさとを訪ねる連続4回の講座です。堆積岩、火成岩、変成岩のすべてがそろった豊川の川原をめぐり、石ころ博士をめざします。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>開催日</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上流のようすを調べる</td> <td>10月28日</td> <td>28人</td> </tr> <tr> <td>中・下流のようすを調べる</td> <td>11月18日</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>河岸段丘の観察と測定</td> <td>12月9日</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>石のふるさとめぐりとまとめ</td> <td>1月13日</td> <td>28人</td> </tr> </tbody> </table>					テーマ	開催日	参加人数	上流のようすを調べる	10月28日	28人	中・下流のようすを調べる	11月18日	26人	河岸段丘の観察と測定	12月9日	26人	石のふるさとめぐりとまとめ	1月13日	28人
テーマ	開催日	参加人数																	
上流のようすを調べる	10月28日	28人																	
中・下流のようすを調べる	11月18日	26人																	
河岸段丘の観察と測定	12月9日	26人																	
石のふるさとめぐりとまとめ	1月13日	28人																	
																			
課題・問題点等	川に親しみ遊ぶ部分と調査活動のバランス、安全確保。一年を通して連続参加できる日程の調整。																		
今後の展開	岩石、化石、鉱物などの地学分野、陸生の動物、野鳥、菌類、植物などテーマをしばって自然教室を開催していく。																		

施策項目	公園の整備		
市街地を中心に魅力ある公園づくりに努めます。また、公園の適正配置に努めるとともに遊歩道など緑のネットワーク化を進めます。			
活動（事業）名	区分	担当課	評価
田町川南公園整備事業	新規	都市計画課	
取り組み内容			
<p>【ワークショップ】 田町川土地区画整理事業により確保された公園用地を、地域の方が利用しやすく、愛着の持てる公園とするために、どのように整備していくかを話し合うワークショップを計4回開催しました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>地域住民の意見を基に作成された基本計画の整備方針 『緑の中でフィットネス』</p> <p>【公園の整備】 ワークショップによる基本計画を基に公園の整備を行いました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>【公園管理】 遊具の保守点検等を行ない、利用者の方々が安全に安心して利用できるよう管理を行っています。</p>			
新たな課題	田町川土地区画整理地の中心部に整備することができ多くの方に利用されているが、ゴミを持ち帰っていただけないために園内にゴミが散乱していることがある。		
今後の展開	今後とも地域住民の憩いの場、健康増進の場として子供から老人まで多くの方に愛着を持って公園を利用していただけるよう、行政で管理を行うとともに、住民の方にも管理に参加していただけるような取り組みを進める。		